

捕獲おりでICT活用

システム導入し効率的に



自動捕獲システムは、おりに取り付けた赤外線センサーが動物の体温や大きさを感知すると、自動で扉が閉まる仕組みだ。これまで使用してきた捕獲おりは、中の回転棒に動物が触れると扉が閉まるものだった。しかし、鹿やイノシシが仕組みを学習し、手前の餌だけ食べて逃げてしまうケースが多発していた。こうした状況を打開するため、センサーは昨年12月からシステムの活用を進めてきた。

センサー感知し扉閉まる 学習する動物に効果期待

おりを管理する農家は、センサー職員の指導でシステムを導入。新しく設置したおりに、人への被害も懸念されていた。大倉生産組合の高橋正宏組合長は「農作物はもちろんだが、登山者への被害が出ないように対策を強化していく」と話した。

おりに取り付け、キャッチ

捕獲をメールでお知らせ 見回りの負担を軽減

センサーは10月から、閉鎖検知システムの取り扱いは開始。おりの扉が閉まると、あらかじめ登録したメールアドレスに、おりの作動通知メールを配信するシステムだ。動物が捕まると、おりが閉まるまで、頻繁に分かるため、頻繁に見回らなければならない。農家の負担軽減が期待されている。



自動捕獲システムの設置方法を説明している様子。確認できる。おりに取り付けたセンサーが、1、2の目には、センサーが市内の9基に機械を取り付けた。農家はシステムのセット方法を確認した。

接近! おじいさま

入船生産組合長の務める元町の横溝竹夫さん。大学卒業後、市内の電力機器メーカーに就職し、品質管理や営業などの業務に携わってきた。休日には農業を営む両親の手伝いで農作業に汗を流している。57歳で会社の役員を務めた後、代々の畑を守ろうと62歳で退職し、就農した。

家族や地域の仲間に感謝

現在、父や妻と共に約20坪の畑で、ナスやサトイモ、ネギなど自家用の野菜を年20品目以上栽培している。本格的に農業を始めたのは1年半ほど前のため、栽培管理などで分からなかったことは、家族や近所の農家に相談。業の魅力を語る横溝さん。おいしい野菜を作るため、肥料の配合などを教わり、日々栽培技術を磨いている。「気象条件に左右され、なかなか思い通りにならないことは、家族に野菜が作れない。だからこそ面白い」と農業の手入れをするのも楽しみの一つだ。小学生の頃から庭の芝生の手入れが好きで、夏場には10日に1回のペースで芝刈り、小まめに管理している。隅々まできれいに整えることが、達成感を味わうことができ、気分転換になっている。



元町の横溝竹夫さん(64)

横溝さんは「慣れないことはかりで失敗も多いが、地域の人たちのサポートのおかげで農作業に取り組んでいる。これからも感謝の気持ちで忘れず、おいしい野菜を作りたい」と笑顔を見せた。

J A はだの

発行 秦野市 農業協同組合 (神奈川県) 〒257-0015 秦野市平沢477 電話 0463(81)7711(代) 発行責任者 宮永 均 印刷所 (株)JA情報サービス

今の特集 4~5面

絵画コンクール入賞作品紹介 J A はだの、カレンダー用の絵を募集し、カレンダー絵画コンクールを開催した。入賞した12点の作品から、1ヶ月に掲載する作品と受賞者を紹介する。

10月訪問日もポスト投函 コロナ影響で簡略化します

10月の組合員訪問日、先月に引き続き訪問投函による対応とさせていただきます。コロナの影響で簡略化いたします。皆さまの健康と安全を第一に考えた上での対応ですので、ご理解をお願いします。



巨大カボチャの収穫に励む飯田さん

支所運営委 地域に根差し企画

支所運営委員会は、組合員に農業体験の場を提供しようと、工夫を凝らしている。遊休農地を活用して、栽培教室や収穫体験を企画、活動を通して、地域交流や農業理解促進につなげている。

上支所運営委員会と上地区農業推進協議会は14日、遊休農地となった菅蒲の畑でソバを刈り取った。ソバの種まきから収穫、そば打ちまでを体験する「そば作り教室」の一環。組合員19人が参加し、委員と協力して作業した。

巨大カボチャでハロウィーン

じばさんずの店頭で並ぶ観賞用カボチャが、来店者から注目を集めている。生産者はハロウィーンに合わせ、収穫と出荷の作業に励んだ。出荷者の一人、堀山下の飯田章さんは、大型品種「アトラン

東・西給油所の営業時間を変更

11月1日(日)から、東・西給油所の営業時間を午前8時から午後7時までに変更します。なお、大根・北・上支所の給油所は、今まで通り午前8時から午後5時まで営業します。ご不便をお掛けしますが、ご理解・ご協力をお願いします。お問い合わせは経済課まで。 ☎81-7717

文中の表彰などの人名紹介の際の敬称は省略させていただきます。

親子で楽しく芋掘り 子育て支援活動 「ままメートクラブ」



協力してサツマイモを掘る親子

JAはだのは16日、上2年前から始めたもの。大槻の畑でサツマイモの収穫体験を行った。子育て支援活動「ままメートクラブ」の一環として、親子は、生活福祉課の職員が栽培したサツマイモ「安納芋」と「べにはるか」を、スコップや手を使って次々と掘り起こした。子どもからは「お芋がいっぱい出てきた」「おみそ汁に入れて食べたい」などと笑顔があふれた。

参加者の一人は「土に触れる機会がなかなかないので、親子で貴重な体験ができて良かった」と話した。

園児88人がエタマメ収穫
地元農家が協力

市立北幼稚園の園児88人は13日、菩提の畑でエタマメの収穫を体験した。地元農家の小泉貴寛さんの協力で、7月に大

農業さらさら振興を 経営士が市長らと懇談

秦野市農業経営士会は14日、本所で高橋昌和市長との農政懇談会を開いた。経営士の他、県農業技術センターや県畜産技術センター、市、市農業た。

懇談会では、農福連携の推進や、環境整備への支援、増え続ける鳥獣やヤミビル被害への踏み込んだ対策などを要請した。

また、農福連携の推進や、環境整備への支援、増え続ける鳥獣やヤミビル被害への踏み込んだ対策などを要請した。

が取り組む「表丹沢魅力づくり構想」に関して、農業の面から提言。来年新東名高速道路が市内で全線開通すると、観光農業の需要の高まりが見込まれることから、周辺の駐車場やトイレの整備をはじめ、オンライン予約やリアルタイムでの情報発信体制などについて意見を述べた。

2021年12月から開始予定の中学校給食への農産物提供については、価格の設定方法や供給量などの情報を早い段階で生産者に公開するよう依頼した。



1月 ししまい

庄司 椰生 (南小1年)

1月にぴったりだと思って、ししまいを描きました。服の細かい模様を頑張りました。



2月 するどい眼光

梅津 大裕 (堀川小6年)

ミズシクの羽毛を表現するため、細かい筆で一本一本丁寧に描き込みました。



3月 ヒヨドリ

府川 陽向 (大根小4年)

ヒヨドリの顔を丁寧に描いて、かわいらしい表情になりました。体の細かい模様も一生懸命描きました。

絵画コンクール 見事な作品飾るのが楽しみ



4月 柴犬とネモフィラ

月村 緋里 (渋沢中3年)

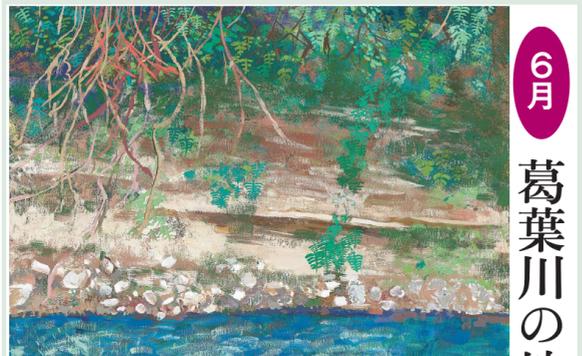
黒い犬の毛は真っ黒ではなく、色の微妙な違いが出るように工夫して塗りました。背景の花は犬たちが引き立つようにぼんやりとさせました。



5月 鯉の川登り

小島 颯介 (東小2年)

小さい頃からこのぼりが大好きだったので描きました。うろこの部分や大きなくさんのこのぼりを描くことを頑張りました。



6月 葛葉川の地層

八巻 蒼依 (北小6年)

地層を頑張って表現しました。葉の枚数を多く、形をきれいに描くように気を付けました。

JAはだのは、毎年組合員向けにオリジナルカレンダーを発売し、配布しています。カレンダーの絵を募集する「カレンダー」の上半分には例年「図画コンクール」を開催し、コンクールに入賞作品を掲載した。

コンクールには、市内の小学校の在校生から582点の作品が集まりました。その中から審査し、12点の作品を掲載し、受賞者は、次号で紹介しました。

発見 頑張り屋 No.447

柳川で「南イデチ商事」を営む井手口英彦さん、秦野市で生まれ育ち、市内の高校を卒業後、電子系の専門学校に入学。その後会社員として3年間働いていた。当時、父親が1人で同社を経営していたため人手が足りなかつたことから、父

細かい作業 達成感に

親を手伝おうと退職。現在は息子の孝太郎さんと2人で経営している。

「仕事内容は？ 企業の看板や車など細かい文字を切る作業です。文字を切り抜いたカッティングシートを貼る作業です。健康に気を付けてながら頑張りつつ仕事を続けたいです。」

新米の農家は稲刈りに汗 季節到来

市内で9月下旬から10月中旬にかけて、米が収穫される。県奨励品種に指定されている「はるみ」などの収穫作業に連日汗を流している。

鶴巻の伊藤勇介さん、父の章さんと共に約1.2畝の田んぼで「はるみ」や「コシヒカリ」などを栽培している。

5年生稲刈り

市立東小学校5年生は13日、東田原の田んぼで稲刈りとほき掛けを体験した。同校と東地区社会福祉協議会が一体となって取り組む「あすまの里」稲作り体験教室の一環。参加した児童87人は地元農家らのサポートを受けながら、農作業に汗を流した。

稲の束ね方を教える大津俊彦さん(左)と児童(右)。

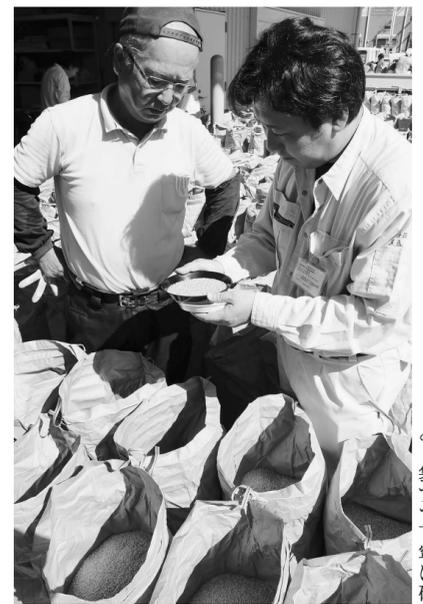
伊藤さんは、収穫時期の台風が心配だったが、無事に刈り取りができて良かった。品質の良い米に仕上がっているの、多くの人に味わってほしい」と話した。

家の指導で、児童が田植えや稲刈りなど一連の米作りの過程を体験するもの。今年は感染症の影響で児童の参加は稲刈り体験だけとなった。

稲刈り作業には、世話人の大津次男さんと大津俊彦さんをはじめ、農家13人が協力した。児童は鎌の使い方や稲を束ねて固く縛ることを学んだ後、作業を体験した。収穫した米は学校給食で振舞われる予定だ。

米の集荷スタート

「はるみ」「コシヒカリ」仕上がりが良い



米の品質を確認する生産者(左)と職員

JAはだのは9月28日から、本所と大根支所などで実施する2020年度産米の検査と集荷をスタートした。生産者の持ち寄った米の品質を職員がチェック。集荷した米は、JA全農を通じて県内の学校給食に供給する他、じばさんずび並ぶ。

粒が大きく品質上々

初日は大根支所で、検査員を務める菅農課の職員が「はるみ」や「コシヒカリ」など3000袋(1袋30kg)の米を検査。粒ぞいりや色づきなどにばらつきを確認。11月5日までに、約94%の集荷を見込んでいます。

JAはだでは、各生産組合を対象に農機整備講習が主体となり、各生産組合で2年に1回開いている。農作業の安全対策意識の高揚と、農業防災保険加入を促進することを目的に募集。今年も87人から5234点の応募があった。

タマネギ資材キャンペーン

JAグリーンはだのは11月6日(金)～15日(日)、タマネギ栽培関連の資材キャンペーンを実施します。農薬や肥料、マルチなどを特別価格で販売しますので、お得なこの機会ぜひご利用ください。

お問い合わせはJAグリーンはだのまで。☎81-7719

農薬や肥料などを特別価格で販売

農繁期前に点検を

生産組合で農機整備講習

JAはだでは、各生産組合を対象に農機整備講習が主体となり、各生産組合で2年に1回開いている。農作業の安全対策意識の高揚と、農業防災保険加入を促進することを目的に募集。今年も87人から5234点の応募があった。



はだの都市農業支援センターは、6、7、9、16、19の5日間、捕獲おりの現地検討会を開いた。おりを管理する農家の他、県の職員、猟友会の会員と共に、市内に設置している49基のおりを巡回。管理状況を確認し、より効果的な設置場所や餌の種類を検討した。

センター職員らは、おりの管理状況や設置場所をはじめ、動物がおりの周辺を通った痕跡を確認。動物が入った時におりが作動しやすいように潤滑剤を塗るなど、小まめにメンテナンスするよう伝えた。



エンジンオイルを交換する組合員(左)

講習会は農機センターが主体となり、各生産組合で2年に1回開いている。農作業の安全対策意識の高揚と、農業防災保険加入を促進することを目的に募集。今年も87人から5234点の応募があった。

花き

汁液診断によるシクラメンの窒素追肥管理

シクラメンは栽培期間が長く、生育段階ごとに厳密な窒素の追肥管理が求められる植物です。

ヒト・ポイント

かながわ無駄被害対策支援センター 0463-22-9521 (内山・島田)

農業技術センター 普及指導部 0463-58-0333

●果樹花き 果樹 (世屋)・作物加工課 作物 (木村)

●野菜 課 花き (藤平) 加工 (中山)

従来の生産者による経験則、葉芽と花芽の状態、新葉の色などから窒素の追肥判断を行っていましたが、リアルタイム栄養診断手法が紹介されるようになりました。

気温の低下に伴い花芽の発達と伸長が盛んになり、積極的に窒素を追肥しても汁液中の硝酸態窒素濃度が下がります。追肥判断が最も難しい時期なので、上げ過ぎず下げ過ぎないように心がけましょう。

文芸の窓

〈俳句〉(酒井 敏光 選)

早稲実る青い目の嫁連れて来る 高島美和子(名古屋)

秋風やりモトで行く世界旅 吉田 清美 洪 沢

早生の田を喰らいて荒らす田螺かな 菊池としえ(菩提)

早稲稔る大草原を渡る風 志賀 明子(千村)

誕生日迎えて祝う栗おこわ 芦川 松江(八沢)

枯れ混じる草木、野分荒々し 石原 松枝(洪 沢)

しほらへは新米こいふ弾む声 柴崎 和子(洪 沢)

名水の垣の新しい秋匂ふ 高橋 順子(大森町)

恙なし一人暮らしの秋簾 柳川みち子(栄 町)

里山に早稲田刈る日の来りけり 佐藤英美子(南矢名)

秋草や廃墟底の高さまで 森高 由子(洪 沢)

信濃路や盆地渺々早生熟るる 藤原 由子(洪 沢)

〈短歌〉(久保寺 富男 選)

里芋の花の一輪さきたれば 残響見舞いのはがきに刷らん 細田 富士(千 村)

評 里芋の開花は珍しい。親芋を植えるとき、咲きやすい、カラーに似た薄黄色の花である。作品は語順を入れ替えた。脱ぎ捨てた孫のジバンに包まれて、なにを夢見んぞ大はすすや 今井 かめ(羽 根)

遠いかと我が家への距離をいつも問う 八木 実(鶴巻北)

空澄みて風さわやかに頬をなす マチユビチュウの坂いろは坂に似る 石田(すず) (水神町)

残響あげ早めに播いた大根が 一斉に目立ちぬ初冬が染しみ 伊東 久(洪 沢)

せて三年命給へよ逝きし妻の 七回忌収めて終活を括らん 選者

※選者による添削あり

今月の理事会

10月22日に理事会を開催し、次のことを審議しました。

2020年度農作業安全標語が決定

入選作品は来年度のJAカレンダーに掲載

紙「JAはだの」で募集した農作業安全標語の入選作品が決まりました。農作業の安全対策意識の高揚と、農業防災保険加入を促進することを目的に募集。今年も87人から5234点の応募があった。

今年の特選標語は次の3点。

もう一度 見直す勇気が 家族も安心 備えよう 農業防災 関野 郁男(落 合)

防除基準 きらっと守って 事故防止 中村 堯成(清水町)

小室 貢(洪 沢)

ケアセンター事業

2021年2月末で廃止

居宅介護支援事業および訪問介護事業を行っていたJAはだのケアセンターは、2021年2月28日をもって事業を廃止します。

JAデイサービスセンターはだのイベントやボランティア活動を紹介いたします。

楽しいよ デイサービス

当センターでは、年間を通してさまざまなイベントを開いています。14、15の両日には、運動会を開きました。

今年には新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮し、自席で参加でき

お問い合わせは、JAデイサービスセンターはだのまで。☎85-1517

家の光 今月の新刊

素材を生かす 精進のころ

やさしい料理 西井 香春 著

尼寺の

東京都小金井市の尼寺「三光院」で評判の洗練された精進料理を家庭でも味わえる。野菜の持つ味わいや色、香り、食感を最大限に生かす調理法とレシピを紹介。旬の野菜と最小限の調味料だけでおいしく作れる。定価1650円(税込)

サツマイモと黒ゴマのプリン

東支部 田邊 節子



材料(8個分) サツマイモ300g、プリン500g、牛乳200g、シロップ100g、黒ゴマ大さじ2、黒ゴマペースト10g、砂糖10g、卵黄2個、片栗粉10g、水100g

作り方 ①サツマイモを半分にし、皮をむき、4分加熱し、つぶす。②プリン、牛乳、シロップ、砂糖、片栗粉を混ぜ合わせる。③サツマイモペースト、黒ゴマペースト、卵黄を加え、よく混ぜ合わせる。④③をプリン型に入れ、冷蔵庫で冷やす。⑤冷やしたら、プリン型から取り出し、黒ゴマペーストをかける。⑥完成。

ゆるキャラグランプリ172位

ゆるキャラグランプリ「ぴーなマン」「やえん」は、今年も全国的に人気を集めました。JAはだのゆるキャラも、今年も全国的に人気を集めました。

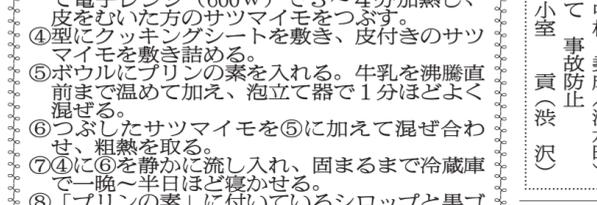
ゆるキャラグランプリ「ぴーなマン」「やえん」は、今年も全国的に人気を集めました。JAはだのゆるキャラも、今年も全国的に人気を集めました。

ゆるキャラグランプリ「ぴーなマン」「やえん」は、今年も全国的に人気を集めました。JAはだのゆるキャラも、今年も全国的に人気を集めました。

手や体を動かし楽しむ

「運動会」

JAデイサービスセンターはだのイベントやボランティア活動を紹介いたします。



JAデイサービスセンターはだのイベントやボランティア活動を紹介いたします。

JAデイサービスセンターはだのイベントやボランティア活動を紹介いたします。

JAデイサービスセンターはだのイベントやボランティア活動を紹介いたします。

JAデイサービスセンターはだのイベントやボランティア活動を紹介いたします。

JAデイサービスセンターはだのイベントやボランティア活動を紹介いたします。

